

平成 30 年度（2018 年度）
吹田市立図書館点検・評価報告書

令和 2 年（2020 年）1 月 3 1 日

吹 田 市 立 図 書 館

この点検・評価報告書は、図書館法（昭和25年4月30日法律第118号）第7条の3に基づき、吹田市立図書館の運営の状況について自己評価を行うとともに、図書館協議会による外部評価をいただいて作成し公表するものです。

吹田市立図書館は、「吹田市立図書館基本構想」（平成25年4月策定）を策定し、平成25年度（2013年度）から10年間の図書館活動の指針を明らかにしています。その第2章3のサービス計画の中で3つの基本目標を設定しています。この基本目標に沿って作成したアクションプラン（別表）の課題と各事業について自己評価と外部評価を行います。

吹田市立図書館の3つの基本目標

基本目標 1 地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。

基本目標 2 生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。

基本目標 3 子育てや学校の支援を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。

評価の基準

- A 取組みを実施し、目標を上回る成果があった。
- B 取組みを実施し、目標には達していないが一定の成果をあげた。
- C 取組みを実施したが、十分な成果をあげることができなかった。
- D 実施できていない。課題の整理、計画の見直しが必要である。

この基本目標とその取組みごとに、図書館の自己評価をするとともに、図書館協議会より外部評価を得るものとします。

〔凡例〕

※文中網掛け部分は、「平成30年度（2018年度）吹田市立図書館の基本方針と目標」【主な事業の計画】に掲載しているものです。

※文中、表に示している図書館名は次のように省略しています。

中央図書館→「中央」、千里図書館→「千里」、千里図書館北千里分室→「北千里」、さんくす図書館→「さんく」、江坂図書館→「江坂」、千里山・佐井寺図書館→「ちさと」、千里丘図書館→「千里丘」、山田駅前図書館→「山駅」、山田駅前図書館山田分室→「山田」

基本目標 1

地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。

取組み 1 図書館施設及びサービス網の整備

(1) 中央図書館の充実（再整備）

ア 中央図書館の整備計画策定を目指し、関係部署との調整を図る

市の施設の維持管理と適正化を目指した吹田市公共施設最適化計画推進委員会作業部会において老朽化した施設の再整備の議論がされています。

中央図書館については耐震診断の結果を受けて平成30年度は耐震改修工事の設計等を進めました。平成31年4月より施設を閉館し令和2年度中の再開を目指しています。

イ 新・中央図書館建設時に書庫機能の整備を図る

(2) 図書館利用不便地域の解消

ア 岸部地域への施設整備を行い図書館サービス網の完成を図る

健都（北大阪健康医療都市）内での図書館整備が進みました。条例改正により名称、地域図書館としての位置づけ、公園との一体管理が決定し、令和2年11月の供用開始予定です。

イ 自動車文庫の活用

利用不便地区への巡回の継続 岸部、青葉丘、南吹田

(3) 図書館の広域利用促進

ア 北摂地域全体の広域相互利用の実施

平成29年7月から北摂7市3町での図書館広域利用を実施しています。

北摂7市3町での広域利用統計				
	平成29年度		平成30年度	
	延利用者数（人）	貸出冊数（冊）	延利用者数（人）	貸出冊数（冊）
他市市民利用	2,460	43,528	14,354	41,931
吹田市民利用	16,776	8,962	24,417	72,169

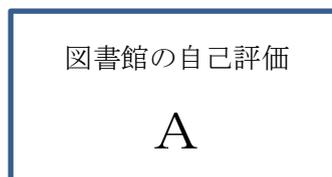
イ 大阪市との広域利用（試行）

大阪市民がさんくす図書館と江坂図書館を利用しています。

	平成29年度		平成30年度	
	登録者数（人）	貸出冊数（冊）	登録者数（人）	貸出冊数（冊）
大阪市民利用	—	6,700	—	7,158
吹田市民利用	1,141	42,284	1,127	37,203

取組みに対する

【図書館の自己評価】



〔成果1〕中央図書館の再整備については、施設維持の検討材料となる耐震診断の結果を受け、改修工事を実施し20年程度施設を維持しながら複合施設での再整備を考えることになりました。

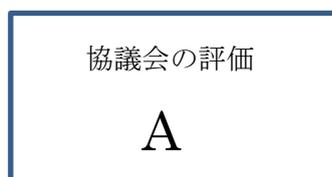
〔成果2〕北大阪健康医療都市内の健都レールサイド公園での図書館整備については、条例の整備など準備作業も順調に進んでいます。

〔成果3〕北摂7市3町で図書館の広域利用に続き要望の多かった江坂図書館での大阪市民利用が開始しました。

〔課題1〕耐震化に伴う改修工事の実施については、遅滞なく工事を進め、20年先の再整備について検討準備を始めていきます。

〔課題2〕岸部地区での図書館整備後、更新時期を迎える自動車文庫については、駐車場の整理と今後の活用方法について検討をしていきます。

【図書館協議会の評価】



〔成果1〕吹田市立図書館協議会は平成27年11月24日「吹田市立中央図書館の再整備のあり方について」答申をした。中央図書館耐震工事が始まり、休館期間が長いので、利用者には不便であるが、今後当分の間、安心して利用できるようになるだろう。

〔成果2〕健都ライブラリーの開館も2020年11月の開館を目指し準備がすすんでいる。吹田市立図書館ネットワークの拠点として、明確に位置付けられたことは、長年地区図書館の建設を望んでいた岸部地区の住民にとっても、誠に喜ばしい。

〔成果3〕北千里小学校跡地複合施設整備についても、地元住民とワークショップを重ねて、住民と行政がともに考える機会の開催等を試みているのは評価できる。新しい住民層も増えている北千里施設の今後に期待したい。

- [成果4] 北摂地域7市3町と大阪市、近隣都市の広域利用も着実に進み、近隣市民を含め、全体にとって利用の便がおおいに高まった。
- [課題1] 千里図書館北千里分室は利用が多いが、狭隘である。千里ニュータウンも新しい世帯も増えつつあるので、町の住民構成も変化している。今後開館が予定されている図書館では、「居場所として」くつろげる空間を望みたい。北千里施設整備にあたっては地域住民の希望を十分に生かして欲しい。図書館単独ではなく、複合施設として、新しい図書館サービスの形を北千里スタイルで作って欲しい。
- [課題2] 健都ライブラリーは医療機関、レールサイド公園など、地域の特性を活かしたサービス展開を期待する。各地域図書館もより一層のサービス向上に努力して、市民の図書館への期待と支持を得られるようご努力をいただきたい。
- [課題3] 健都ライブラリーには、一部指定管理が導入されるが、市民の利用者からは分かりにくいので、きちんと説明をお願いしたい。
- [課題4] 中央図書館の耐震補強工事が遅れているが、2020年内の開館は大丈夫か。臨時窓口については、利用者に対して全館的にもう少しPRをお願いしたい。

取組み2 利用促進

(1) 年間貸出冊数の目標達成

平成30年度個人貸出点数			
実績	3,542,107点	目標値	約400万点

令和4年度末に人口一人あたり12点を目標に掲げ、約432万点の貸出を目指しています。平成30年度の目標への達成率は88.5%でした。ICタグを利用した図書館システムの導入により自動貸出機、返却機、予約照会機、予約棚、ゲートを運用しています。図書館のスタッフの手を経ずに資料の借出し返却をすることでプライバシー保護の向上と運営費用の削減につながっています。

(2) 広報、情報発信機能の推進

ホームページコンテンツの充実とSNS利用で情報発信機能の向上を図る。

公式アカウントによるFacebook、Twitter、メールマガジンでの情報提供を実施しています。Facebookでは写真を使った行事報告や、最寄りの図書館に興味を持ってもらえるような各図書館のPR記事と、周辺の地域の話なども館ごとに月1回のペースで掲載しています。Twitterでは、おすすめの資料、本日あるいは近日中の開催行事を日替わりで紹介することで、読みたくなる、行きたくなる仕掛け作りを続けています。

ホームページにおいて児童向けや地域資料のコンテンツの充実を図るとともに、各ページの使い勝手の向上を目指しました。

ホームページアクセス推移 (件数)		
	平成29年度	平成30年度
蔵書検索	6, 441, 997	6, 424, 185
携帯版	22, 411	23, 156

SNS投稿件数 (件数)		
	平成29年度	平成30年度
Facebook	532	452
Twitter	628	563

	平成29年度		平成30年度	
	配信回数 (回)	送信件数 (件)	配信回数 (回)	送信件数 (件)
メールマガジン	24	41, 368	24	52, 384
新着案内	52	12, 220	52	14, 723

(3) 資料多様化への試み

ア デジタルデータの公開

地域資料等のデジタル化とホームページで写真や新聞記事見出し索引、地域件名等のデータベースの公開をしています。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価
B

〔成果1〕貸出点数は目標点数に達しませんでした。実利用者一人あたりの貸出点数は51点となっています。新規登録者数と予約の受付冊数が増えています。情報発信の成果が出ているものと思われます。インターネット利用数やCD、DVDの視聴回数は増加しています。資料を借りるだけでなく図書館に滞在して利用することが定着してきているものと感じます。

〔成果2〕システム更新時に一度下がった「メールマガジン」や「新着図書お知らせサービス」の利用件数が回復し、さらに増加しています。「メールマガジン」登録数は過去

最高を更新しています。

〔課題1〕SNSについては、リアクションの増加を意識しながら投稿数の回復を目指します。

〔課題2〕現在の登録者数に対する利用者数は前年度同様62%程度となっていますが、新規登録者数は増加しています。今後、リピート率を高める仕掛けづくりと新規登録をさらに増やす取組みが必要と考えます。中央図書館の再整備や新設図書館の整備にあたっては、わかりやすく使いやすい、何度でも行きたくなる図書館づくりを目指します。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

〔成果1〕館外貸出数は大阪府内市立図書館の中でもトップクラスにランクされている。吹田市立図書館は質の良い選書がされており、読みたいと思う本が提供されている。必要な場合は他館からの取り寄せもすばやく手配してもらえる。利用者の利便性を考え、サービスされていると思う。

〔成果2〕メールマガジンでは「新刊紹介」や「調べ物手伝います」など、図書館らしい情報が発信されている。Facebook、Twitterでの情報発信は画像やすいぼん等とともに親しみやすい頁になっている。Facebookではサービス現場の写真が掲載され、健都ライブラリーの建設状況や、お話会の様子などがよく分かる。図書館フレンズの手作りポスター等の写真も図書館活動を身近なものとして楽しめる。また、「すいぼんいんふおるまーていおー」や「本のおしらせ」「図書館で調べもの」など情報を印刷物でも館内配布しているのもよい。

〔課題1〕住民の図書館利用の形態も変化している。オンライン情報発信も有効に働いていると思うが、図書館利用が生活空間のひとつとなるよう、居心地のいい生涯学習の拠点としての役割を強めて欲しい。

〔課題2〕児童サービス、YAサービス共に、他市にない誇れる取組みをされています。「もうよんだかな？」と「てくてく」は職員の専門性が生かされていると思います。これらの取組みを続けるために質の維持・継続ができるようにしてください。

取組み3 資料と情報の提供

(1) 成人サービス

ア 読書情報の提供（おすすめ本やパスファインダー等）

読書の楽しみを知ってもらうために各館で本の紹介をする特設コーナーを設置し、併せてリストを作成しました。また、文学賞受賞や作家の訃報などの時事に合わせたミニ特設を設置しています。平成25年度からTwitterによるおすすめ資料「今日の1冊」の紹介をしています。

調べもの支援のため各種のパスファインダー(※)を作成し、各図書館で設置しています。ホームページでも公開しています。 ※パスファインダー：テーマ別の課題解決のための調査方法案内（図書リストを含む）

イ 各種図書館講座の充実と文化行事の実施

平成30年度成人向け講演会等行事参加人数			
実績	3,983人	目標値	6,000人

※リサイクルフェアを除く

【成人向け講演会等行事参加人数内訳】

	中央	千里	さんくす	江坂	ちさと	千里丘	山駅	計
回数	11	30	6	16	10	25	12	110
人数	205	1,498	388	1,307	281	135	169	3,983

※北千里分室は千里図書館に、山田分室は山田駅前図書館に含めます。

ウ 行事の開催等による新規利用者の獲得

医療情報講座を企画しています。利用者参加型行事として千里丘図書館で作品展示を利用されている方を講師として講座を開催しました。各館の多目的室・集会室を利用した催しとして、中央図書館での「特別展示 大阪万博 EXPO'70」、千里図書館での「ミニ絵画展」やさんくす図書館の明治から昭和初期出版の児童書の復刻版の展示が好評でした。また、まなびの支援課との連携事業の運動講座は各館で好評を得ています。

(2) レファレンス事例や地域資料データベースの充実

ア レファレンス（調査回答）件数

	中央	千里	さんくす	江坂	ちさと	千里丘	山駅	計
一般	1,761	2,523	1,714	1,658	2,356	1,242	1,916	13,170
児童	354	350	72	319	585	131	314	2,125
計	2,115	2,873	1,786	1,977	2,941	1,373	2,230	15,295

平成29年度受付件数 16,167件

※自動車文庫は中央図書館に、北千里分室は千里図書館に、山田分室は山田駅前図書

館に含めます。

イ レファレンス事例のデータベース化

吹田市立図書館で調査回答したレファレンス事例を国立国会図書館のレファレンス協同データベースに登録しています。56件の公開件数でした。今後もレファレンス能力の向上に努力していきます。

ウ 地域資料の収集保存とデータベース化

地域資料増加冊数 41冊
新聞等地域件名データ新規作成件数 851件

エ 大学図書館や類縁機関との連携

類縁機関、大学などに閲覧、複写希望の方の紹介状を発行しています。
大学との連携協力に関する基本協定に基づき、各大学と実習生の受入や市民利用等の連携を行います。大学図書館の市民利用登録の広報に協力しました。大阪学院大学では市民向けの説明会を実施していただいています。
大和大学との共同研究「公共図書館における知的障害者のための合理的配慮の在り方に関する研究」に協力し講座の開催等と研究発表に取り組みました。

(3) 行政支援サービス

ア 公用貸出冊数（市職員への業務用貸出数）

平成30年度 67冊

イ 行政向けの政策立案支援サービス

行政職員向け新着図書案内サービスを毎月行い、問い合わせも少しずつ増え、17件の調査相談に回答しました。今後も本庁に向けて政策立案支援サービスをより積極的に周知することで、利用促進に取り組みます。

ウ 連携事業

環境部、地域経済振興室、高齢福祉室等と取り組みを実施しています。

(4) 児童サービス

ア 各種図書館講座の充実と文化行事の実施

平成30年度児童向け行事参加人数			
実績	11,650人	目標値	20,000人

【児童向け行事参加人数内訳】

(ア) おはなし会（「ブックスタートのひろば」「おひぎで絵本」をのぞく）

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	144	95	20	107	55	68	54	79	8	630
人数	1,123	775	116	554	384	528	210	670	307	4,667

(イ) 子どもと本のまつり、おたのしみ会、一日図書館員、その他

	中央	千里	北千里	さんくす	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	27	12	9	25	8	26	19	32	6	164
人数	845	390	369	503	364	1,883	618	1,472	212	6,656

BM 4回327人

イ 図書情報の提供

平成30年度冊子発行部数 (YA向け冊子「てくてく」を含む)			
実績	17,329部	目標値	13,000部

【情報提供冊子発行部数内訳】

(ア)「おめでとう1年生」配付部数 4,329部

(イ)「もうよんだかな?」18(第44号) 8,500部

※「おめでとう1年生」は、市立小学校の1年生全員に利用案内やおすすめ本の紹介の載ったリーフレットを配付し、各図書館で4月に特設コーナーを設置しています。

「もうよんだかな?」は、4、5歳から小学校高学年を対象に、前年に出た本の中からおすすめの本を図書館の司書が選び冊子にして紹介しています。ミニ版は市内小学生全員に配付しています。夏休みに特設コーナーを設置しています。

(ウ) 児童向けホームページ

平成28年2月に公開しました。子ども向けのレファレンスや図書館の使い方の説明などを充実させました。「ごりまる便」や「ごりまる学校訪問」「もうよんだかな?セット」の申込みをインターネット化しています。

(5) ヤングアダルト (YA) サービス

※中高生世代向けサービス

ア 主な取組み

各館とも、YA向きのテーマを決めた特設コーナーを設置し、部活動、スイーツに関する本や職業体験の中学生からのおすすめの本等を紹介しています。

- ・千里図書館 文豪小説、数学を楽しもう!などテーマに沿った展示を行いました。
- ・中央図書館 YAサポーターの運営による「教科書に載っていたらやる気が出る本」をテーマとしたビブリオバトルを開催しました。
- ・さんくす図書館 YA特設コーナーに「10代オモシロイ本掲示板」を設けて、YA世代が本の紹介ポップを投稿し、図書館がコメントをつけて掲示しています。また、「いろんな部活があるよ」や「映画・ドラマ・アニメの原作本」などの特設コーナーも設置しました。

イ Y A サポーター行事参画状況

中高生世代の行事参加人数			
実績	62人	目標値	40人

【行事参加人数内訳】

(ア) Y A サポーター活動状況

中央図書館 4回 参加のべ人数 30名

山田駅前図書館 12回 参加のべ人数 32名

(イ) Y A ビブリオバトル実施

中央図書館 7月22日 参加人数 19名

※参加人数には成人を含みます。

(ウ) 参加型企画

10代オモシロイ本掲示板 59点

「てくてく」編集委員募集

ウ Y A 向け冊子「てくてく」の発行

「てくてく」平成30年度(第34号) 4,500部

※「てくてく」は、中高生世代を対象に、前年に出た本のなかからおすすめの本を図書館員が紹介するとともに、吹田市の中高生世代によるおすすめ本の紹介とイラストなども掲載している冊子です。ミニ版(ダイジェスト版)は、市内中学生全員に配付しています。夏休みには各図書館で特設コーナーを設置しています。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

B

〔成果1〕(YA) 中央図書館と山田駅前図書館で中高生サポーターを募集し、ビブリオバトルなどの行事の取組みを行いました。Y A 世代の皆さんに夏休み文庫の冊子「てくてく」に親しんでもらうため、編集委員5人を募集し、平成30年11月～平成31年2月まで第35号の特集ページを作成する活動をしました。夏季には応募されたイラスト作品の巡回展を行って同世代の興味を喚起しました。図書館ホームページのY A のページも本の紹介コーナーなど情報を更新しました。

中高生世代の利用を増やす取組みとして、図書館を体験することのできる職業体験の受入れ方法を工夫して成果をあげています。山田駅前図書館では、市内の高校の入学案内パンフレットを収集・配布し、高校進学についての情報提供を行って

ます。

- 〔成果2〕（**地域資料**）新聞記事見出しデータはボランティアの協力を得ながら継続して作成しています。写真データの登録数を増やすための準備を行っています。
- 〔成果3〕（**レファレンス**）紙媒体の情報を主とする利用者を対象に、レファレンス事例を紹介するリーフレット「図書館で調べもの」の発行を開始しました。
- 〔成果4〕（**行政支援**）資料の所蔵調査だけでなく、特定の事項に関する調査、官報情報検索サービスなど図書館で契約しているデータベースの検索調査等、幅広い内容の調査相談があり、サービスの浸透が見られました。議会図書室との連携について、議会事務局と協議しました。
- 〔成果5〕（**主催行事・講演会**）「図書館講座じゅずつなぎ」では市民のニーズも考慮しながら吹田にゆかりのある人や地域住民を講師に招いた講座や、吹田の歴史・地名に関する講座を実施して好評を得ています。その他にも図書館資料を紹介する展示会などを開催しました。
- 〔課題1〕市民を資料に結び付ける機会を提供するために行う行事等の回数は増加しましたが参加人数は目標値に達していません。一人でも多くの人に本との出会い、人との出会いの場を提供し、その後の図書館利用につながるような取組みを企画します。
- 〔課題2〕（**学校**）団体貸出しの受付のインターネット化によって物流の増加が見込まれるため、学校への定期連絡便の運行の実施が課題です。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

- 〔成果1〕取組みの難しいYAサービスも、山田駅前図書館を中心として、若い人に加わってもらいながら、実現されている。若い人達の活動をPRして、その輪がさらに広げる努力もされている。
- 〔成果2〕市役所職員への「政策立案支援サービス」も定着してきたようなので、継続して欲しい。市民や行政の中で、市政情報が図書館で気軽に入手できることを広く知って欲しい。
- 〔成果3〕ボランティア活動の一環として、地域資料の新聞記事見出しデータ作成に取り組んでいただいているのは良い。自分の地域をもっと知りたいという市民は多い。
- 〔成果4〕「国立国会図書館レファレンス協同データベース事業」への登録件数も増えており、司書のレファレンス力が高いと信頼ができる。

[課題1] 地域資料パンフレットが館別に分担収集されているのはよいが、永久保存が少ないのが気になる。散逸しやすい資料だからこそ、図書館で保存する意義がある。

[課題2] 学校への支援で重要なのは要求への素早い対応と物流の確保だ。学校への定期連絡便運行の実施については、学校現場で「連絡便があったら、もっと活用できるのに。」という機運づくりが必要だろう。学校図書館を活用した学習の取組みが大きな成果を生むことの理解を広めて欲しい。

[課題3] 本庁内にある議会図書室との連携は、是非進めて欲しい。

基本目標 2

生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。

取組み1 施設や地域との連携

(1) 男女共同参画センター情報ライブラリー、平和祈念資料館などとの連携

横断検索や返却本の受付を行い、行事案内で相互協力しています。

(2) 児童会館・児童センターとの連携

図書館の保存年限を過ぎた子育て雑誌を移譲し、有効活用を図りました。

(3) 他部局との連携

環境政策室や地域経済振興室との連携事業に取り組みました。

公民館等へ講師派遣をしています。

千里図書館では、昨年に引き続き都市計画部と豊中千里ニュータウン連絡会議と連携し、ミニ絵画展とギャラリートークを開催しました。また、平成29年度に地域経済振興室と連携して設置した「起業コーナー」には、「起業」に特化した選書と雑誌パンフレットの展示を行っています。また同室から提供された情報も取り入れ「ビジネス支援だより」を発行しています。

山田駅前図書館では、ゆいびあの青少年活動サポートプラザ、のびのび子育てプラザと連携し、「夏祭り」「リサイクルフェア」「国際交流フェスティバル」「ゆいびあのお正月あそび」「防災について考えよう!!」などの行事において、関連図書の展示や、不要になった図書の提供、かるた遊びなどを行いました。

(4) 吹田市出前講座の充実と活用

平成30年度出前講座等講師派遣実施件数			
実績	26件	目標値	6件

平成29年度34件

【出前講座等講師派遣内訳】

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	6	2	1	5	2	8	0	1	1	26

図書館出前講座メニュー数 10講座

(5) 地域との連携

- ア 各図書館で児童サービスコーナーに地域の保育所や子育て関連施設のパフレット、逐次刊行物を置くほか市内施設案内パンフレットや催し物に関するチラシなどを設置して地域情報の共有に努めました。
- イ 地域の公民館や自治会、隣接する施設に行事等の案内を配布し、図書館利用の促進に努めました。

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価 A

- [成果1] 出前講座や連携講座等の協力事業実施で図書館へのアピールにつながっています。
- [成果2] 吹田市の他部局との連携をさらに進めるため、各種の依頼にはできるだけ応えるようにして信頼できる施設としての位置づけを確かにするよう努めています。庁内LANへの掲載の効果もありコラボ企画も持ち込まれるようになっていきます。また、行政支援レファレンスの依頼も増えています。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価 A

- [成果] 環境政策室や地域経済振興室との連携など、他部局が図書館と組むと市民サービスの新しい展開があることを気付いてもらえる。行政の中での図書館の存在感を形成することができる。千里図書館での都市計画部と豊中千里ニュータウン連絡会など、さまざまな連携で企画を進めていることが評価できる。

取組み2 自己実現の援助

(1) ボランティア活動の推進

平成30年度ボランティア総数			
実績	607名	目標値	820名

※目標値は令和4年度に1,000名登録を目標に、年45名増を目指しています。

ア ボランティア登録状況 25団体

※平成29年度 ボランティア登録状況 24団体 575名

イ ボランティア養成状況

(ア) 児童サービス関係

- ・ブックスタート等のためのお話ボランティア養成講座 6回 延人数 170人
- ・ブックスタートのためのお話ボランティアスキルアップ講座 2回 98人
- ・ブックスタートとおひざで絵本のためのスキルアップ講座 1回 39人

(イ) 障がい者サービス関係

- ・音訳・対面朗読ボランティア養成初級講座 11回 延人数 116人
- ・音訳・対面朗読ボランティア養成中級講座 10回 延人数 116人
- ・音訳・対面朗読スキルアップ講習会 8回 延人数 53人
- ・デジジー図書製作・編集・使い方講座、プレ講座 8回 延人数 79人
- ・点訳ボランティア養成中級講座 10回 延人数 70人

ウ 主なボランティア活動状況

【イで養成したボランティアと説明会に参加して図書館に登録した図書館フレンズの活動状況】

	平成29年度	平成30年度
ブックスタートのひろば実施回数	1, 221回	1, 224回
おひざで絵本実施回数	382回	373回
対面朗読実施回数	775回	747回
音訳・点訳図書製作数	159タイトル	133タイトル
図書館フレンズ活動回数 (活動内容：イベント補助、館内装飾、データ入力、地域資料整理、緑化)	244回 (延参加人数554人)	251回 (延参加人数577人)

【図書館フレンズ活動回数内訳】

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	24	46	3	21	28	61	35	23	10	251
人数	44	107	3	52	59	156	90	46	20	577

(2) 自己実現へ向けての動き

ボランティア養成講座を実施し、終了したボランティアが図書館活動を支えています。さわる絵本づくり講座を終了した「さわる絵本一步の会」が、その後も触る絵本づくりの活動を継続されています。

(3) 各事業への市民参画による企画立案

市民団体等の企画による行事

図書館名	ボランティアグループ等の企画による実施行事	企画グループ等名称
ちさと	ちさと暮らしに役立つ講座「知って安心、老後の備え」 かがくあそび「作って体験トリック工作」	吹田図書館ともの会
江坂	江坂ロビーフェスタ	技芸精舎

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

B

〔成果1〕（ボランティアの登録人数）ブックスタートのためのボランティア養成講座の成果が表れ、20名の方が新規登録されました。児童サービス関係のボランティア全体では33名の登録増加となりました。

〔成果2〕（市民団体等の企画による行事）主催、共催等で行事を実施しています。ボランティアグループとのコラボ企画である江坂のロビーフェスタは146回を超え、また、吹田図書館ともの会の企画講座も定例化してきました。千里丘図書館では市民作品展示の出品者が講師となる講座の実施に取り組みました。

〔成果3〕（図書館フレンズ）図書館フレンズは、平成29年度に比べ、登録者数・継続登録率・活動回数・延参加人数ともわずかですが増加しました。

〔課題1〕全体のボランティア登録数が目標に達しません。養成講座修了者の登録促進や活動継続促進のための働きかけを続けます。

〔課題2〕令和元年度より、図書館フレンズの通年の登録受付を開始します。図書館フレンズの活動を広く市民にPRし、より一層活動に参加しやすく工夫していきます。

〔課題3〕催し物や各種講座等にアンケート等で市民の意見を取り入れる他に、企画段階から参加してもらう仕組みづくりに取り組みます。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

[成果1] 図書館でのボランティア活動は図書館が市民と共に歩むために大きな柱だ。吹田市立図書館では長年培われてきた協働関係がある。特に児童サービス、障害者サービスの面では大きな力となっている。職員とボランティアがお互い顔の見える信頼関係が築かれているのだと思う。市民団体企画による行事が増えていることは、職員の支援の中で、図書館を活動の場とさせていただき市民がおられることで、多彩な企画が期待できる。

[課題1] 市民との協働は地道な努力の中で育っていくものなので、図書館サービスの進展のためにじっくり取り組んで欲しい。息の長い付き合いの中で図書館に対する市民の気持ちが深まっていると感じる。

[課題2] ボランティア活動の推進において、目標値と実績に差がありますが、求める側と求められる側との認識の違いの現れと考えます。実際ボランティアとして登録されても、自己実現を可能にできるだけ意識がもてるかどうかです。ただ子育てが終わって時間ができたからとか、リタイアして時間ができたからだけの理由で「ボランティアでも……」では、自己実現は難しい中、それをいかに可能に導くのが課題と思います。

取組み3 図書館利用に障がいのある人へのサービスの充実

(1) 視覚障がい者サービス

ア 対面朗読実施回数 747回

※平成29年度 775回

イ 音訳図書・点訳図書製作件数 133タイトル

(ア) テープ図書 5タイトル ※平成29年度 11タイトル

(イ) デイジー図書 108タイトル ※平成29年度 121タイトル

(ウ) 点訳図書 20タイトル ※平成29年度 27タイトル

ウ 音訳図書貸出件数 3,995タイトル

※平成29年度 3,843タイトル

エ 音声デイジー再生機（プレクストーク）貸出回数 18回

オ 平成25年度からサピエ(※)に録音図書の書誌と点字図書のコンテンツを登録し、全国から利用されています。

※サピエ（視覚障害者情報総合ネットワーク）：点字データや音声データの全国ネットワーク。

カ 職員の点訳中級講座受講

(2) 来館困難者へのサービス

ア 自動車文庫による福祉施設等への貸出 11施設 貸出冊数 4,286冊

※平成29年度 11施設 4,703冊

イ 身体障がい者等図書館への来館に困難を伴う方々へ郵送貸出をしています。
郵送貸出登録者数 25人 貸出冊数226冊

(3) 聴覚障がい者サービス

ア 講座への手話ボランティアの配置 30年度は希望者なし
イ 音声解説・日本語字幕付き映像資料のリストを作成

(4) 障がい児サービス

視覚障がいの児童へ小学校を通じて点字資料の貸出を行いました。

(5) その他障がい者へのサービス

ア 「ユニバーサルコーナー」(千里山・佐井寺図書館)、「やさしくよめるほん」のコーナー(中央図書館、さんくす図書館)を設置しています。
※「ユニバーサルコーナー」や「やさしくよめるほんコーナー」にはLLブック、大活字本、点字図書、さわる絵本等を設置しています。
イ マルチメディアデイジー(映像つきデジタル録音図書)の利用拡大をはかるため各図書館で利用体験ができます。
ウ LL版の利用案内「ようこそ吹田市立図書館へ」をホームページでも公開しています。
エ 中央図書館、千里山・佐井寺図書館で、知的障がい者を対象とした図書館体験ツアー(利用案内、館内見学)を実施しました。3回 50人
オ 「知的障がい者支援のための読書サポート講座」、「読書サポートのステップアップ講座」を開催しました。4回 のべ96人

(6) 障がい者サービスボランティアの育成

各種講座を実施し、ボランティアを育成しています。

音訳・対面朗読ボランティア養成講座(初級・中級)	21回	のべ232人
音訳・対面朗読スキルアップ講習会	8回	のべ53人
デイジー図書製作・編集・使い方講座	8回	のべ79人
点訳ボランティア養成講座(中級)	10回	のべ70人

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

A

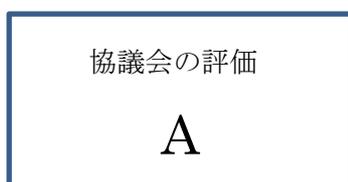
〔成果1〕音声デジタイ再生機の利用体験を全館で実施しています。令和元年度中に貸出用の音声デジタイ再生機を、分室を除く全館に設置します。

〔成果2〕平成29年度に開始した墨字図書の郵送貸出事業は、利用が増加しています。

〔成果3〕科学研究費助成共同研究「公共図書館における知的障害者のための合理的配慮のあり方に関する研究」に参加して、知的障がい者を対象とした図書館ツアーやLLブックを中心としたわかりやすいほんのコーナーの設置などの取組みを行いました。

〔課題〕市役所関連部局や各団体との連携をすすめ情報提供やサービスの利用を促進します。

【図書館協議会の評価】



〔成果〕大和大学と「公共図書館における知的障害者のための合理的配慮のあり方に関する研究」という、今、公共機関に最も求められている協同研究に取り組み、図書館ツアーやLLブックの紹介など、実践していることは、高く評価したい。

〔課題〕医療機関や高齢者施設の施設訪問など、他機関の連携には難しい点もあるかと思うが、地域の中の図書館として、地道に取り組んで欲しい。マルチメディアデジタイの貸出も取り組んでいるので、福祉部門や学校教育との連携をとり、利用を進めて欲しい。健都ライブラリーの健康医療サービスの展開を期待している。

取組み4 特色あるサービス

(1) ビジネス支援サービス

江坂図書館では、有料データベース「日経テレコン」を提供し、ビジネス支援コーナーを設置し一般ビジネスに役立つ資料を集めています。さんくす図書館では就労支援コーナー、千里図書館では起業コーナーを設置しています。

(2) 多文化サービス

ア 多言語による読み聞かせ等行事の実施

※千里図書館で実施

平成30年度多文化関係行事回数			
実績	2回	目標値	5回

【行事等内訳】

- (ア) 英語でえほんを楽しもう！（千里図書館で実施） 1回 18名参加
- (イ) もっと知りたい！おとなりの国6 スリランカ（千里図書館で実施）
1回 48名参加

イ 外国語資料の充実
外国語資料所蔵数 5,762冊

(3) **健康・医療情報サービス**

保健センターの依頼により主催の講演会のテーマにあった本の紹介リストを作成提供しました。千里図書館では、大阪府済生会千里病院の協力により「健康医療情報講座」を引続き実施しています。また、同病院への読み聞かせボランティアへの団体貸出しを行っています。

(4) **就労・就業支援**

さんくす図書館でコーナーを設置し、就職や仕事に役立つ資料を紹介しています。資格試験の参考書や問題集、「JOBナビすいた」等の関連施設のパフレットやちらしを置いています。

※「JOBナビすいた」は、吹田市に在住、在学、在勤の方を対象にした市の就労支援センターです。仕事の紹介の他、就労のためのセミナーや相談コーナーなどがあります。

中央図書館では就労や職業訓練に関するパフレットやチラシ、新聞折り込み求人広告を配置しています。

(5) **地域経済への貢献**

平成30年度実施事業数			
実施事業数	3	目標事業数	5

【実施事業内訳】

広告事業などで地域経済の発展に寄与し資料の充実を図る。

地域経済の活性化を目的として、平成24年度から図書館の資料を貸し出す際に発行する貸出レシート及びホームページに民間企業等の広告を掲載する事業を実施しています。引き続きガンバ大阪についての資料収集を続け、試合開催に合わせて関連資料の交換展示等に取り組みます。

- (ア) レシート広告 30年度 1社 54,000円

※貸出の時にわたすレシートに広告を掲載しています。

平成24年5月から実施。平成29年度 応募なし

(イ) 図書館ホームページバナー広告 1社 16,000円

※図書館のホームページに広告枠を設け掲載しています。

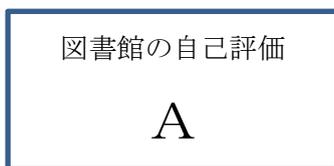
平成24年11月から実施 平成29年度 3社 60,000円

(ウ) 広告掲載物品の無償提供

引き続き広告付きブックスタート用の袋の提供事業者募集を行い、応募条件の見直し等も行ってきましたが、応募が無く実現していません。

取組みに対する

【図書館の自己評価】



〔成果1〕(多文化) 千里図書館では英語による絵本の読み聞かせや外国文化を知る講演会を行いました。

〔成果2〕(ビジネス支援) 江坂図書館では初めてのビジネス講座「近畿の経済情勢を見る」(講師 近畿財務局職員)を開催し好評でした。これからも継続して開催します。

〔成果3〕大阪府の地域経済振興政策「EG おおさか」の取組みである「EG おおさか推進ネットワーク」に中央図書館、千里図書館、江坂図書館が参加し、「地域経済コンシェルジュ養成研修」を聴講生として一部参加し情報収集等に着手しました。

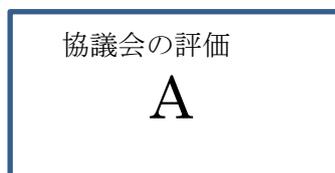
〔成果4〕(健康・医療情報)「吹田保健所管内がん関係機関連絡会」で情報交換をした大阪府済生会千里病院により、千里図書館で講演会を今後も継続実施の見込みです。

〔成果5〕「療養・介護」のパスファインダー(調べものガイド)を作成し全図書館で設置配布しています。健康・医療情報に関するパスファインダーは2種類になりました。パスファインダーはホームページでも公開しています。

〔課題1〕ビジネス支援は、地域の企業や市内で就労されている方に対して具体的に働きかけていく必要があります。関係部局と連携しながら、他市の取組み等を研究し今後に生かします。

〔課題2〕広告事業については、掲載企業は地元企業が中心です。PRに一役買うことで、市内企業の後援となるため、引き続き取り組んでいきます。

【図書館協議会の評価】



【成果】江坂図書館を中心に進んできたビジネス支援サービスも定着し、ビジネス講座も開催されている。地域経済振興室と連携し、「起業コーナー」が千里図書館でも取り組まれている。ビジネス資料やデータベースの充実が少しずつ進んでいる。法律データベースの導入で、全館で利用できるようになったのも、大きい。「公共図書館に行けば、仕事に役立つ本がある。」という意味でも定着してきている。

【課題】多言語（英語だけではなく）の読み聞かせは地道に続けていけば、在日外国人家族への広がり、ニーズが見いだせると思う。オリンピックを控えてスポーツ関連の資料もより広く、専門的なものが求められると思う。

基本目標 3

子育て支援や学校の連携を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。（「子ども読書活動推進計画（改訂）」の推進）

取組み 1 子ども読書活動支援センター機能の充実

(1) 子育て支援サービス

平成30年度ブックスタートのひろば、おひぎで絵本等参加人数			
実績	16,404人	目標値	23,000人

【参加人数内訳】

ア ブックスタート事業

年度	絵本配付率	ひろば開催回数	ひろば参加人数
平成30年度	80%	1,224回	12,797人
平成29年度	81%	1,221回	14,026人

イ おひぎで絵本 ブックスタートを終了した2、3歳児とその保護者を対象にした読み聞かせの会

年度	開催回数	参加人数
平成30年度	373回	2,905人
平成29年度	382回	3,640人

ウ 抱っこで絵本講座

※1歳の幼児とその保護者を対象に絵本の読み方のコツを伝授する3回連続講座

平成30年度 48回 参加人数 510名

エ 育児相談 「保育士の子育て講座」 江坂 1回 参加人数 12名

「保健師のなんでも相談」と交互に隔年で、江坂図書館で開催しています。0～1歳児と保護者を対象に、子育て中の悩みごとなどについて講演と相談が行われました。リラックスした雰囲気の中、気軽に質問を行う場となりました。

オ 親子で絵本とわらべうた 20回 参加人数 180名

※乳幼児とその保護者を対象に、絵本やわらべうたを楽しむ5回連続講座（中央で開催）

(2) 学校連携

平成30年度図書館見学等学校連携事業参加人数			
実績	2,067人	目標値	2,300人

【参加人数内訳】

事業等名称	回数等	参加人数
図書館見学（※1）	23回	1,349人
ごりまる学校訪問（※2）	0回	0人
学校訪問（※3）	9回	534人
職業体験（※4）	42回	184人

※1 図書館見学：学年単位で図書館見学を受け入れ、図書館の利用案内、パネルシアター、大型紙芝居、絵本の読み聞かせ、ブックトークによる本の紹介などを行う事業です。町たんけん授業や、職業インタビューも含んでいます。

※2 ごりまる学校訪問：自動車文庫の車両で、司書が学校を訪問して、図書館の利用案内、パネルシアターなど先生と相談し実施しています。

※3 学校訪問：図書館から各園・校に出向き利用方法の説明や、読み聞かせ、ブックトーク（本の紹介）などを行います。

※4 職業体験：市内の中学校から職業体験生を1回1校1～4人、1～3日で受入れ、貸出、返却などのカウンター業務の他、図書を書架に並べたり本にビニールフィルムを貼るなどの作業や絵本・紙芝居の読み聞かせなどの実習を行います。

ア 団体貸出 756件 11,628冊

イ ごりまる便 66校 2,374冊

※月2回自動車文庫の車両で団体貸出の本を学校に配達し、回収を行う事業です。

ウ 「もうよんだかな」セットの貸出 24校 6,120冊

過去の夏休み文庫で紹介した本（「もうよんだかな？」と「てくてく」に掲載分）を学年に合わせて40冊をセットにして学校に1学期間貸出しました。自動車文庫の車両で配達と回収を行いました。

エ リサイクル図書の移譲 26校 1,865冊

図書館で使わなくなった図書を、市民に提供する前に案内し移譲しました。

(3) 児童会館・児童センターとの連携

図書館で使わなくなった図書や雑誌を移譲し、資料の有効活用を図りました。出前講座を行いました。

(4) 講座・講演会の開催

平成30年度児童文学に係る講座・講演会等の参加者数			
実績	755人	目標値	430人

【児童文学に係る講座講演会参加者内訳】

ア 子どもと本の講座

(ア)「子どもたちと絵本の扉をひらくー未来に生きる子どもたちへのバトンタッチー」

講師 正置 友子 氏

5回 参加延人数 258人

(イ)「グリム童話のメタファー」 講師 野口 芳子 氏

3回 参加延人数 150人

イ 講演会

「第34回子どもと本のまつり講演会 行きつ戻りつの絵本創り，読み聞かせ」

講師 とよた かずひこ 氏

10月14日 参加延人数 255人

「戦争と絵本」 講師 正置 友子 氏

12月1日 参加人数 39人

ウ 後援事業

「子どもと本の集い」吹田子どもの本連絡会主催（子どもゆめ基金助成事業）

12月9日 53名

(5) 吹田市出前講座その他講師派遣

児童生徒の読書活動の振興を目的とする出前講座、講師派遣事業参加人数			
実績	814人	目標値	1,700人

【参加人数内訳】

	中央	千里	北千里	さんく	江坂	ちさと	千里丘	山駅	山田	計
回数	6	2	1	3	2	8	0	1	1	24
人数	135	70	38	67	134	310	0	25	35	814

取組みに対する

【図書館の自己評価】

図書館の自己評価

B

- [成果1] (出前講座、講師派遣) 図書館独自の子育て支援の講座に加え、公民館や児童センター等地域へ出向いています。依頼があれば必ず出かけていきます。
- [成果2] (読書活動支援者との交流会) 地域館と各小学校で実施し、交流が深まりました。山田分室では要望があり平成30年度は2回実施しました。
- [成果3] (学校支援) 図書館のホームページの「学校支援のページ」を充実しPRに努めました。「ごりまる便」の受付などをホームページ経由にした結果、学校への団体貸出の件数と冊数や「ごりまる便」の利用がさらに増加しました。
- [成果4] 学校や幼稚園、保育園の先生に図書館をもっと利用してもらえるよう、学研図書館部会や、幼稚園・保育園の先生への研修に講師派遣を実施しています。
- [成果5] 地域館より市内全小学校と中学校についても18校中7校への図書室訪問を実施しました。
- [課題] 読書活動支援者への技術的なサポートを継続していきます。貸出については、自動車文庫の車両を活用するなど努力していますが、定期的な物流の確保が引き続きの課題です。

【図書館協議会の評価】

協議会の評価

B

- [成果1] 吹田市の子育て支援は図書館と他の機関と連携しながら、きめ細かく行われてきた。
- [成果2] ブックスタート事業において、3か月の集団検診が行われていない吹田市で絵本の配付率が80%を超えているのは大きな成果と思います。「ブックスタートのひろば」「おひざで絵本」の取組みの成果も大きいです。今後、配付率をもっと伸びることが課題です。
- [成果3] 『すいたの教育ビジョン：中間見直し版』でも放課後の子どもの居場所充実があげられている。図書館では以前からごりまる便活用の学校訪問など、取組みが

すすめられてきた。図書館サービスがひとりひとりの子どもに届く努力がされている。

[成果4]「学校支援のページ」が充実してきているのも、評価できる。読書活動支援者の交流会も行われている。学研図書館部会への研修や図書館見学等、学校連携事業など増えている。地域館での学校訪問も取り組まれている。

[課題1] 法律にも定められた『子ども読書推進計画』は大阪府では平成28年3月に第3次を策定している。図書館だけのがんばりではできない大きな施策である。吹田市でも子どもに関わるすべての市民とともに歩める『吹田市子ども読書活動推進計画（改訂）』推進のための体制作り、「吹田市子ども読書活動支援センター」の設置に、より一層取り組んで欲しい。

[課題2]「子どもと本のまつり」等、30年以上、地域の人たちとつくりあげてきて、吹田の子どもに本を読む楽しさを知ってもらえる機会を作ってきた。地味だが大切な努力を続けて欲しい。

[課題3] 公立小学校図書館に読書活動支援員が1校1名専任配置されて、状況の改善は進んでいるが、学校図書館の整備はやっと始まったばかりと考える。一人一人の児童生徒に図書館サービスが届くには不十分な状況である。図書館のみの努力ではさらなる進展はむずかしい状況なので、市民と行政が一体となつての事業推進が大切だと思う。

[課題4] 学校図書館との連携について、とても支援しておられますが、学校図書館充実に向けて、物流など、連携をさらに進めていただくことが課題としてあります。

	平成30年度 図書館事業評価一覧	自己評価	協議会評価
基本目標 1	地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも、役立つ図書館サービスを目指します。		
取組み	1 図書館施設及びサービス網の整備	A	A
	2 利用促進	B	B
	3 資料と情報の提供	B	B
基本目標 2	生涯学習を支援して、仕事や暮らしを豊かにする図書館サービスを目指します。		
取組み	1 施設や地域との連携	A	A
	2 自己実現の援助	B	B
	3 障がい者並びに来館困難者へのサービスの充実	A	A
	4 特色あるサービス	A	A

基本目標 3	子育てや学校の支援を通して、子どもの健やかな成長に役立つ図書館サービスを目指します。		
取組み	1 子ども読書活動支援センター機能の充実	B	B
総合評価	<p>【図書館の自己評価】</p> <p>平成 30 年度は、昨年度に引き続き障がい者サービスの充実に取り組みました。他にもビジネス支援サービスにおいて講座の開催や研修への参加、学校支援では図書館ホームページからの「ごりまる便」「もうよんだかなセット」の申し込み開始など従来からのサービスを一步進める取り組みを行いました。</p> <p>中央図書館で耐震改修工事の設計等が進み、岸部地域における図書館の準備作業も順調に進んでいます。今後も図書館の施設整備については主体的に取り組んでいきます。</p> <p>市民協働をすすめながら今後も市民の役に立つ図書館サービスを展開していきます。</p> <p>【図書館協議会の評価】</p> <p>総じて、図書館の組織及び運営は質的に高いレベルで、各館の多様な特徴を生かしながら、所期の事業目標をおおむね達成している状況かと思われます。今後は、特に健都ライブラリーが予定通り稼働し、吹田市民の図書館関連活動がより一層推進される地域拠点となることを楽しみにしております。広域サービスの拡大や学校連携などの充実も注目されますが、職員の資質向上の研修機会を確保しつつ、事業従事者の負担とサービスの質保証のバランスを図りながら取り組みを進めていただければと思います。</p> <p>特に、広域連携の促進や出前講座の実施など、他自治体・機関等との連携について数値的にも内容的にも成果が上がっていると考えます。</p> <p>学校連携については「ごりまる便」以外は利用されているように思います。参加人数内訳に記載はありませんが、小中学校だけでなく高校、大学あるいは社会人施設や高齢者施設まで、「学校」に限らず社会</p>	B	B

	<p>連携として幅広い年齢層に向けて連携を図っても良いように思います。「社会教育施設」でもある図書館としての側面も活かして地域貢献やビジネス支援など、全ての取り組みに繋がる可能性も考えられます。</p> <p>学校支援では図書館ホームページから「ごりまる便」「もうよんだかなセット」の申し込みができるサービスが開始された。読書活動支援者への研修等、技術的なサポートの充実をお願いします。</p> <p>吹田市立図書館のホームページには「図書館の運営」というサイトがある。「吹田市立図書館基本構想」から「図書館運営方針」「統計」さらに図書館協議会のサイトと大変充実している。図書館法にも明示されている情報開示なので、当たり前ともいえるが、充実させている図書館は案外少ない。図書館として長期的、短期的な運営方針をしめし、実現に日々努力し、市民へ情報開示するという努力を評価したい。</p> <p>吹田市立図書館は、全体の基本方針と目標を持ち、さらに地域館が、住民のニーズに応えながら、サービス対象を意識しながらの特色あるサービスを生み出している。それぞれの地域館を利用すると、全く異なる雰囲気を楽しむことができ、図書館サービスの多様性と可能性を感じる。</p> <p>評価報告書については、目標と実績を評価報告書に併記することで、客観的で妥当な評価であることが市民にも一目瞭然であるようにすべきかと思う。</p> <p>報告書を見て計画に対する結果が短い文章でわかるようにして市民にとって読んで頂ける報告書であるべきである。そして、各館の活動をきちんと評価すべきである。平成 30 年度の基本方針と目標との比較での評価が必要である。(平成 25 年度策定の基本構想に示されたサービス計画に基づく項目に合わせるなら、基本方針の策定時にきちんと合わせる必要がある)</p>		
--	--	--	--